



2021年度 第1回平和学習会 主催 グリーンコープ共同体組織委員会

一人の人間として日韓の歴史を振り返り 平和と連帯を考える

「日韓の歴史」と「平和」について考える

内なる平和と対なる平和

グリーンコープ共同体組織委員会は、グリーンコープの「平和」についての考え方を学び、組合員一人ひとりが平和について広い視点で考え、知識を深めるために、平和学習会を継続して開催していきます。今年度は7月22日にオンラインで第1回平和学習会を開催し、組合員201人が参加しました。

※「ピョンファ・エ・ダリ (平和の橋) 韓国への旅」

毎年7月にグリーンコープの組合員が韓国の「日本軍慰安婦歴史館」・「ナヌムの家」などを訪問。過去の日本の侵略の歴史を知り、平和について考える取り組み。ハンサリム連合とドユレ生協連合会の組合員と交流を深めている。2020年度と2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止した。



講師 キム起燮さん

グリーンコープ共同体顧問 1963年韓国江原道原州市生まれ。韓国の延世大学卒業後、日本の神戸大学大学院で有機農業運動と協同組合運動などを学ぶ。

「平和」について考える場合、通常は、国同士の関係だけを思い浮かべます。その時の「平和」は、二度と戦争や侵略の歴史を繰り返すことなく、国同士が仲良く暮らすことを想定します。「国同士の平和」も大事ですが、それより「自分の中の平和」(内なる平和)と「仲間との関係における平和」(対なる平和)のほうがもっと大事です。

「二人の人間」に帰る

私は韓国人である前に一人の人間で、皆さんも日本人である前に一人ひとりの人間です。何かの縁で、私は朝鮮半島に、皆さんは日本列島に生まれただけのことです。日韓の歴史を語り合うときには、「一人の人間」に帰るべきです。

元慰安婦のことについて、韓国の政府は「彼女らが強制連行され売春を強いられた」と主張しています。日本の政府は「強制的客観的な証拠はなく、経済事情

のために自ら性売買を望んだ」と主張しています。しかし、強制連行か自発的性売買かは、どちらもその判断基準を(合法か不法か)と断言するのは難しいです。したがってそのなかには、同じ人間として、彼女たちが味あわなければならなかった苦しみや悲しみへの共感はずっとも見当たりません。

グリーンコープの組合員たちが毎年、「ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋) 韓国への旅」の中で元慰安婦の方たちを訪ねているのは、同じ人間として、自分たちの目で確かめ、彼女たちの苦しみや悲しみを実感するためです。歴史を見る私たちの見方は、まず一人の人間に帰って、過去の人間と出会うことです。

「グリーンコープの平和論」を再考する

グリーンコープにおける「平和」は、「内なる平和」と「対なる平和」であって、決して「国同士の平和」ではありません。グリーンコープが、「戦争反対」を訴える代わりに「不戦」を誓うのも、同じ理由からです。グリーンコープの「平和論」の中にある、「平和と

生命には、それ自体に価値がある」とは、平和と生命を政治的に意義づけられないことと、政治家たちは、「国民のより良い生活のため、平和と生命を守りましょう」とよく言います。裏を返すと、「より良い生活のためなら、いつでも平和と生命を犠牲にしてもしかたはない」といったことになりません。そんなセリフにだまされて、大勢の人々が戦場で命を亡くし、自然を破壊してきたのです。平和と生命は、いかなる場合でも、特に国家や集団の政治目的のために、手段として利用されてはいけないのです。

「グリーンコープの平和論」は、平和と生命を自身や他人との関係のなかで貫いていき、「一人の生命として平和に生きたい」と願う、生命の本願の「信の共同体」を求めていることと訴えているのです。

「信の共同体」の「信」とは、自分を自分で信じることで、そうした自分たちの切り開く世界を信じていることです。私を信じ、私たちが(グリーンコープ)が切り開く「平和と生命」の世界を信じて、皆さん、お互いに頑張りましょう。

助けてくれた日本人に勇気ももらいました。



講師 セイシンイチ 成信一さん

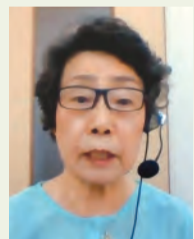
元グリーンコープやまぐち生協専務理事 1941年、京都の西陣の織屋で朝鮮人の両親のもと「日本人」として生まれる。

これまで学習会で在日朝鮮人の歴史を話されたことはありませんでした。が、もともと知ってもらいたいと思います。

1945年8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し敗戦を認め、朝鮮は解放されました。在日朝鮮人はその当時、日本国籍を持っていました。

一人の人間として、自分が大切だから他人も大切にできる。

1952年、サンフランシスコ講和条約の発効で在日朝鮮人は日本国籍を失いました。



講師 イギョングイ 鄭吉子さん

元グリーンコープやまぐち生協専務理事 1942年生まれ 韓国全羅南道麗水出身。生まれた翌年に家族で日本に移住。

第二次世界大戦後、在日朝鮮人は弾圧され試練の日々を過ごしました。朝鮮学校の建設に関わった父は刑務所に入れられた。朝鮮学校は閉鎖されました。集会や抗議デモ、父の面会に刑務所へ行ったこと、裁判で法廷に行つたことも覚えていますが、辛いことばかりでした。

外国人登録証明書の携帯の義務が生じ、悪いこととしていないのに、指紋をとられたことは耐えら

れないと思いました。高校からはまた朝鮮学校に行くことができ、自分たちの民族の歴史や文化、言葉を学び、歌もたくさん歌いました。この頃が人生で一番楽しくて幸せな時期だったと思います。

グリーンコープと出会って、これまで30年も関わってきました。グリーンコープでは自分を大切に生きていることができました。自分が大切だから他人も大切にできる、自分が大切にしたいやなことを人にはしない、人間として誠実に生き、今できることを楽しくできたから、グリーンコープとの関わりが続いたのだと思います。

ある時は日本人にされたり、ある時は外国人として扱われた辛い経験を

を失い、処遇は厳しく、一般の外国人と同様に扱われるようになりまし。しかし、在日朝鮮人の処遇改善のために助けられた日本人はたくさんいました。人として在日朝鮮人をみてくれ、支援や援助をしてくれた日本人がいてくれたことに勇気ももらえました。

グリーンコープと出会い、人と人同士の付き合いができるようになりました。私の人生の後半を、そういう人たちに助けられながら、それなりに輝かせることができたことは、大きな財産だと思っています。

知ってほしいと考えています。今、一つの民族が韓国、朝鮮、在日と三つに分断されています。在日朝鮮人、韓国人が自由に故郷の旅を楽しめる日が来ることを願っています。

投稿募集中
●うちの家族
●私の好きな
●グリーンコープ商品
●2500字程度
●毎月月末
●住所氏名年齢TEL所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。
●掲載分にはグリーンコープ商品購入に利用できます(5000円分を上限)。
●住所氏名などの組合員の個人情報には本紙に掲載の場合のみ使用します。
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前
1丁目5-1
博多大博通ビルディング3F
グリーンコープ福岡三ヶ丘センター
ワーキング連(RN)
FAX 092-481-7876
Eメール greencoop.or.jp